会　議　録

会議の名称	令和 8 年度第 3 回飯塚市子ども読書活動推進計画策定委員会
開催日時	令和 8 年 10 月 28 日(水)　10 時 00 分～10 時 50 分
開催場所	イイヅカコミュニティセンター3 階　セミナー室
出席委員	高野委員、高田委員、矢野委員、中堀委員、宮本委員、野見山委員、綿引委員、松村委員　以上 8 名
欠席委員	岡松委員
事務局職員	井尻生涯学習課長補佐、松尾中央公民館・図書館係長、黒川中央公民館・図書館係
指定管理者	出席なし
発言者	発言内容
事務局	1　開会のことば 　会議成立報告・資料確認 ～以下、進行は高野委員長～ 2　議事
事務局	**（議案第 1 号）第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画の素案について** 議案第 1 号「第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画の素案について」、資料 1 から資料 3 に基づき説明した。 基本目標については、前回の会議で絞り込んだ 2 案を基に、上位計画との整合性や第 3 次計画からの継承・発展、子どもたちの未来を見据えた分かりやすさを考慮し、3 つの最終候補案を作成したことを説明した。各案の特徴や文言の長さ、抽象性などの課題を示し、委員に意見を求めた。 基本方針については、国及び県の読書活動推進計画並びに第 3 次計画を踏まえ、「発達段階に応じた切れ目のない読書習慣の形成」、「安心・快適な読書環境の充実と多様な読書機会の確保」、「デジタル社会に対応した読書機会の創出への取組」の 3 項目を設定したことを説明した。前回の会議で修正意見がなかったため、これらを第 4 次計画の基本方針として採用したことを報告した。 続いて、資料 3 の素案について、前回承認された構成及び基本方針を基に、基本目標、取組内容及び成果指標を精査・修正したことを説明した。11 ページの基本目標については、本日の会議で決定した案に差し替える予定であり、13 ページの分野別の具体的取組については、前回の意見を踏まえて加除修正を行ったことを説明した。 また、17 ページの進捗管理指標については、令和 7 年度アンケート及び市立図書館業務報告書に基づく現状値を記載しており、令和 13 年

	度の目標値については、数値の分析後、次回会議までに設定して提示することを説明した。 以上の説明を行い、基本目標、分野別の具体的取組及び進捗管理指標について、委員に意見を求めた。
委員	基本目標は、提示された案をそのまま使う必要はないということでよいか。A 案と B 案は少し長く感じる。C 案は短くてよいと思うが、「本との出会いで心うごく」という表現は残したい。これに B 案の「未来をひらく子どもの読書環境を創る」を組み合わせてはどうか。「いつでも、どこでも、誰とでも」という文言は、必ずしも必要ではないと思う。
委員	A 案の「本との出会いで心うごく」が良いと思う。また、「うごく」が平仮名表記なところも気に入っている。
委員	今の意見から、「本との出会い」「心うごく」「読書環境を創る」という 3 つのキーワードを絡めた目標にしてはどうかと思うがどうだろうか。
委員	他の方の意見も聞いてみたい。
委員	案 C の「読書が創る子どもの未来」というフレーズを副題に使うのも良いと思う。
委員	「本との出会いで心うごく」というフレーズは気に入っている。
委員	資料をいただいた時点では、前回の協議も踏まえ、B 案がよいと考えていたが、今日の皆様の意見を聞き、主題と副題は必ずしも同じ案のものを組み合わせる必要はなく、さまざまな組み合わせが可能であると感じた。また、「読書環境を創る」という表現は必要だと思う。最初に提案された内容を基に、「本との出会いで心が動く」という趣旨と「読書環境を創る」という表現を盛り込んでまとめれば、簡潔でよいのではないか。
委員	「本との出会いで心うごく」という表現はよいと感じており、計画の内容にも合っていると思う。また、「いつでも、どこでも、誰とでも」という表現は、飯塚市の上位計画とのつながりを示すものなので、必ずしも短縮せず、その趣旨を踏まえて検討してもよいのではないかと思う。一方で、全体としては、皆さんが言われたように、短く印象に残る表現にすることに賛成である。

委員	キャッチフレーズは短く、印象に残るものがよいと思う。また、漢字やひらがなの使い方など表記にも配慮し、より簡潔で印象的なフレーズを検討していただきたい。
委員	ほかに意見がないようなので、本件については、本日の質疑及び意見を基に事務局で素案を作成し、次回の委員会で改めて審議することとする。
事務局	続いて、第 4 章、第 5 章についてご意見伺いたい。13 ページの第 4 章「分野別の具体的取組」については、前回の意見を踏まえ、加除修正を行った。主な変更点は、家庭・地域の取組内容を「読書啓発活動への参加促進」に、保育施設の取組内容を「読み聞かせ活動の充実」に変更したことである。その他、文言や表現を整理している。意見があればお願いしたい。 続いて、17 ページ以降の進捗管理指標について説明する。基本方針Ⅰでは、読書が好きな割合、全く本を読まない割合、自主的に学校図書館を利用する割合を指標とする。基本方針Ⅱでは、図書貸出セット等の活用率、定例おはなし会の実施回数、市立図書館の児童生徒向け図書の貸出冊数を指標とする。基本方針Ⅲについては、目標値の設定が難しいため、電子図書館に関する調査研究の実施状況や電子デバイスを活用した読書に関する意識調査を参考指標として、経年的に把握する予定である。これらについてご意見を伺いたい。
委員	17 ページの指標について、「全く本を読まない割合」は、小学校 2 年生から 3 年生が 7.1%、小学 4 年生から 6 年生が 11%となっている。一方で、「読書が好きな割合」は高学年の方が高い。両者の数値に整合性がないように感じるが、どのような関係があるのか。
事務局	小学校低学年向けのアンケートは、「読書が好き」「普通」「嫌い」の 3 項目で実施している。一方、小学校高学年と中学生は、「読書が好き」「どちらかといえば好き」「普通」「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の 5 項目で実施している。そのため、比較できるよう、「好き」と「どちらかといえば好き」を「好き」に、「嫌い」と「どちらかといえば嫌い」を「嫌い」にまとめている。この集計方法により、「読書が好き」の割合がやや高く出ている可能性はある。ただし、実際には、小学校では学年が上がるにつれて読書が好きな割合が増え、中学校で減少する傾向が見られる。このような変化を今後も把握していくため、今回この指標を採用している。
委員	今回のアンケートについて、以前から気になっている点がある。「読

	書が好きか、嫌いか」という設問に対し、「どちらでもない」という選択肢があるが、これはどのような意味なのかと感じている。「好き」「どちらかといえば好き」「どちらかといえば嫌い」「嫌い」といった選択肢でよいのではないか。先日、新聞に掲載されていた読書に関するアンケートでも、同様に4つの選択肢に加えて「不明」となっており、「どちらでもない」という選択肢はなかった。今回はすでにアンケートを実施しているため変更は難しいと思うが、次回以降は「どちらでもない」という表現を見直していただきたい。
事務局	「どちらでもない」という回答は、読書が好きでも嫌いでもないという意味であり、読書そのものにあまり関心がない層が含まれているのではないかと考えている。この層は、今後の読書体験によって、好きにも嫌いにも変わる可能性がある。そのため、先ほど委員から紹介されたアンケートの「不明」に近い回答とも考えられる。設問の文言については、今後検討していきたい。ただし、今回の調査内容については、経年変化を把握するため、基本的には継続していきたいと考えている。
委員	次回のアンケートでも「どちらでもない」という設問を設けるということか。
事務局	アンケートについては、計画期間の中間時点で実施することを考えている。これまで継続的に実施してきたアンケートであるため、選択肢の区分を変更すると、経年変化を比較できなくなる可能性がある。その点も踏まえ、設問や選択肢の内容について検討したい。
委員	目標値の設定について、事務局の考え方を伺いたい。計画期間の5年間で成果を上げることが目標だと思うが、右肩下がりの指標については、現状維持や低下に歯止めをかけること自体を目標とする考え方もありという考えか。また、目標値を設定する際、現実的に達成可能な数値とするのか、努力目標として高めに設定するのかによって、評価が変わってくるかと思う。現時点で、事務局は現実的な目標値を設定するのか、努力目標として高めに設定するのか、どのように考えているのか。
事務局	目標値は、計画に記載している具体的な取組を踏まえ、現実的に達成可能な数値として設定したいと考えている。また、右肩下がりの指標については、減少率を抑えることや、現状維持を目標とすることもありだと考えている。例えば、毎年3%減少しているものを1%の減少に抑える、あるいは減少を止めて現状維持を目指すといった考え方もあ

	る。
委員	現状値と前回の数値を比較して、上昇しているのか下降しているのかが分かりにくい。ここについて、グラフなどを追加する予定はあるのか。
事務局	現時点では、計画書にグラフを掲載したり、令和 7 年度の現状値以降の数値を記載したりする予定はない。ただし、次回の会議では、これまでの数値の推移を示し、今回の目標値を設定した理由について説明したいと考えている。
委員	17 ページについて、目標値を設定する際には、例えば「毎年 2%向上させる」あるいは「現状維持とする」など、設定の考え方を明確にしていただきたい。その際、各指標の数値に整合性が取れていることが重要だと思う。現状の割合を見ると、指標によっては設定内容が分かりにくいものや、異常値が含まれているように感じる。現状値は残してよいと思うが、各指標や割合について、もう一度確認・整理していただきたい
事務局	今のご意見を踏まえ、資料記載の指標を実際に採用するかどうか、改めて検討する。場合によっては、指標を 3 つから 2 つに減らすことも考えている。また、より適切な指標があれば、そちらを追加したい。
委員	18 ページ下部「電子書籍を選ぶ割合」については、パーセンテージにずれがあるように見受けられるため、再確認をお願いしたい。
事務局	事務局で再度確認する。
委員	電子書籍は読書に入るというスタンスで良いか。
事務局	良いと考えている。
委員	電子書籍で読む場合も、紙の本で読む場合も、いずれも「読書」に含まれることを、アンケートに明記していただきたい。中学生や小学校高学年の児童の中には、電子書籍で読んだ場合、「紙の本ではないため読書には含まれない」と考える可能性もある。そのため、回答者が迷わないよう、読書の定義を分かりやすく記載していただきたい。
事務局	子どもたちが迷わないような記載内容にする。

委員 事務局	17 ページの進捗管理指標内の文言について、途中で消えている箇所があるため修正していただきたい。 修正を行う。 その他について案件なし。 次回の会議予定を報告し閉会 閉会　10：50
会議資料	事前配布資料 ・会議次第 ・第４次飯塚市子ども読書活動推進計画「基本目標・基本方針」設定の経緯 ・第４次飯塚市子ども読書活動推進計画　基本目標（案） ・第４次飯塚市子ども読書活動推進計画（素案） 当日配布資料 ・第４次飯塚市子ども読書活動推進計画(素案) 質問票
公開・非公開の別	1　公開　　2　一部公開　　3　非公開　　（傍聴者　0 人）
その他 （非公開理由等）	